

付録－ 1

点検表記録様式、記入要領及び記入例

1. 点検表記録様式

1. 1 点検表記録様式の種類

点検表は、点検の種別に応じたものを使用する。

通常点検 : 通常点検表記録様式

初期点検、定期点検 : 初期点検、定期点検用点検表記録様式

定期点検表記録様式については、道路標識、道路照明施設、道路情報提供装置及び道路情報収集装置の点検に使用できる共通様式として作成した。

ただし、橋梁、トンネル内、及び横断歩道橋に設置されている道路照明、道路標識等については、「橋梁定期点検要領（案）」（平成〇年〇月 国土交通省道路局）、「道路トンネル定期点検要領（案）」（平成〇年〇月 国土交通省道路局）及び「横断歩道橋定期点検要領（案）」（平成〇年〇月 国土交通省道路局）に示された記録様式を基本とするが、場合によっては準用することができる。

<通常点検記録様式>

整理番号		点検会社		局	
点検年月日	平成 年 月 日	点検者	管轄	事務所	出張所
路線名		点検結果			
管理番号	附属物名	距離標	所在地	損傷内容	損傷状況
				揺れ・変形・その他	
				揺れ・変形・その他	
				揺れ・変形・その他	
				揺れ・変形・その他	
				揺れ・変形・その他	
点検結果確認者	氏名	氏名	氏名	備考	
点検結果に対する対応					

<初期点検、定期点検の記録様式>

点検表(施設諸元)

種別		管理者		管理番号	
----	--	-----	--	------	--

■位置情報

道路種別		路線名		上・下別	
所在地				距離標 (km)	
緯度		経度		備考	

■構造情報

支柱形式		表面処理形式		基礎形式	
支柱基部リブ形状		路面境界部の状況		灯具種類	
標識設置枚数及び標識番号		標識板の取付形式		標識板の落下防止対策	
ゆるみ止め対策の有無		合いマーク		制振装置の有無	
柱基部排水性向上対策		設置年月		備考	

■設置環境情報

設置環境		海岸からの距離		融雪剤散布区間		風規制実施区間	
防雪対策実施区間		センサス年度		センサス区間番号		交通量	台/24h
道路幅員 (m)		歩道幅員 (m)		緊急輸送道路指定の有無		通学路指定の有無	

■点検情報

点検種別		点検方法		点検年月日		前回点検年月日	
点検員 (所属・氏名)				備考			

更新履歴		前回設置年月	
------	--	--------	--

■位置図

■ポンチ絵、写真(全景、その他)等を添付

注1:緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する

注2:距離標、センサス(年度、区間、交通量)については、ある場合に記入する。

点検表(損傷記録票)

種別		管理者			管理番号	
----	--	-----	--	--	------	--

■ 損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称											
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		き裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価										
	措置後評価										
措置 (応急含む)	実施内容										
	未 実 施	理由									
		予定時期									
		予定内容									
特記事項											

- ポンチ絵、写真
- ・ 損傷部位、箇所を記載
 - ・ 措置(又は応急措置)前後の写真 等

※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

点検表(板厚調査結果記録票)

種別		管理者			管理番号	
----	--	-----	--	--	------	--

■板厚調査結果

調査部位					測定厚			管理 板厚 t _c (mm)	限界 板厚 t _l (mm)	損傷程度 の評価
部材	調査箇所	記号	測定位置	番号	1回目	2回目	最小厚 t(mm)			
支柱	支柱本体	Pph	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						
	電気設備用開口部	Phh	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						
			左	5						
			右	6						
	柱・ベースプレート溶接部	Pbp	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						
	路面境界部 (GL-40)	Pgl-40	0°	1						
			90°	2						
180°			3							
270°			4							
柱・基礎境界部	Ppb	0°	1							
		90°	2							
		180°	3							
		270°	4							
横梁	横梁本体	Cbh	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						
	横梁・ベースプレート溶接部	Cbh	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						
	横梁仕口溶接部	Cbw	0°	1						
			90°	2						
			180°	3						
			270°	4						

※測定位置については、円周方向4箇所以上とし、腐食状況等に応じて測定箇所を増やすなど適切に状態を把握できるよう考慮すること。

※標準的な測定位置については、附属物(標識、照明施設等)の点検要領(案)(平成〇年〇月 国土交通省道路局)付録-3を参照。

1. 2 点検表の記入要領

選択項目については、各道路管理者が共通様式とし使用できるよう選択項目を幅広く記載しているので、記入に際しては、適宜、項目を選択し記入すること。

1. 施設諸元

(1) 種別等

○種別 : 点検対象施設を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・道路標識
- ・道路情報提供装置
- ・道路情報提供措置（添架物有）
- ・道路照明施設
- ・その他

※道路情報提供装置に標識等（占用物件含む）が添架されている場合は、
「道路情報提供装置（添架物有）」を選択する。

※道路情報提供装置には、道路情報収集装置を含む。

○管理者 : 当該施設の管理者を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
管理者	○○地整	△△事務所 □□出張所

○管理番号 : 各道路管理者が定める当該施設の管理番号を記入する。

(2) 位置情報

○道路種別 : 当該施設が設置されている路線の種別を以下から選択し、記入する。

【選択項目】

- ・ 高速自動車国道
- ・ 一般国道（指定区間内 高規格）
- ・ 一般国道（指定区間内 高規格以外）
- ・ 一般国道（指定区間外）
- ・ 都道府県道
- ・ 市町村道
- ・ その他

○路線名 : 当該施設が設置されている路線名を記入する。
なお、同一路線名のバイパス、旧道等に設置されている場合は、路線名の後ろに（ ）書きでその旨を記載する。

【記入例】

- 号（○○バイパス）
- 号（旧道）

○上・下別 : 当該施設が設置されている路線の上・下の別を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・ 上り 終点から起点向きの車線
- ・ 下り 起点から終点向きの車線
- ・ 上・下 上・下線を跨いでいる場合

○所在地 : 当該施設の所在地を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
所在地	○○県	△△市	□□□町1-2

○距離標 (km) : km 単位とし、小数点以下3位 (m) まで記入する。
ただし、距離標が無い場合は、記入しない。

○緯度・経度 : 当該施設の代表箇所の緯度・経度（世界測地系、60進法で0.1秒まで）を記入する。

○備考 : その他位置に関する情報等があれば記入する。

(3) 構造情報

○支柱形式 : 当該施設の支柱形式を以下より選択し、記入する。

<道路標識・道路情報提供装置の場合>

【選択項目】

- ・路側式
- ・片持式（逆L型）
- ・片持式（F型）
- ・片持式（テーパーポール型）
- ・片持式（T型）
- ・門形式（オーバーヘッド型）
- ・添架式
- ・その他

<道路照明施設の場合>

【選択項目】

- ・ポール照明方式（テーパーポール型）
- ・ポール照明方式（直線型）
- ・ポール照明方式（Y型）
- ・添架式
- ・トンネル照明
- ・その他

○表面処理形式 : 当該施設の表面処理形式を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・塗装式
- ・亜鉛めっき式
- ・塗装式+亜鉛めっき式
- ・その他

○基礎形式 : 当該施設の基礎形式を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・埋め込み型
- ・ベースプレート型
- ・添架型
- ・その他

○支柱基部リブ形状 : 当該施設の基礎形式がベースプレート型の場合、支柱基部リブ形状を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・三角リブ
- ・U字リブ
- ・その他
- ・無

○路面境界部の状況 : 当該施設の支柱基部の路面境界部の状況を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・コンクリート
- ・アスファルト
- ・土砂
- ・ベースプレート露出
- ・インターロッキング
- ・その他

○灯具の種類 : 当該施設が道路照明施設の場合、灯具の種類を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・水銀灯
- ・ナトリウム灯
- ・蛍光灯
- ・LED
- ・その他

○標識設置枚数及び標識番号 : 当該施設に標識板が添架されている場合、すべての標識枚数及び標識番号を記入する。(ただし、占用物件は除く)
 標識板が複数枚設置又は添架されている場合は、主たるものの標識番号を3つまで記入する。
 なお、当該施設に標識等の占用物件が添架されている場合は、備考欄に枚数等を記載する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
標識設置枚数 及び標識番号	5	108の3、118の2-A、204

○標識板の取付形式 : 取付形式を以下より選択し、記入する。
 なお、取付形式が異なる複数枚の標識が設置されている場合は、取付形式を3つまで記入する。

【選択項目】

- ・固定式
- ・吊下式
- ・その他

※吊下式とは、横梁から下側へヒンジ構造で標識板を吊り下げて設置する方式

<参考> 吊下式の例



【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
標識板の 取付形式	吊下式	固定式	

○標識板の落下防止対策 : 対策の実施状況について以下より選択し、記入する。
 なお、「有（全部、一部）」「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策内容を記入する。

- 【選択項目】**
- ・有（全部）
 - ・有（一部）
 - ・今回実施（全部）
 - ・今回実施（一部）
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
標識板の落下 防止対策	有	落下防止ワイヤー

○ゆるみ止め対策の有無 : ボルト・ナット等のゆるみ止め対策の実施状況について以下より選択し、記入する。
 なお、「有（全部、一部）」「今回実施（全部、一部）」の場合は、具体的な対策方法を記入する。

- 【選択項目】**
- ・有（全部）
 - ・有（一部）
 - ・今回実施（全部）
 - ・今回実施（一部）
 - ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
ゆるみ止め 対策の有無	有（一部）	緩止ナット ダブルナット

○合いマーク : ボルト・ナットの合いマークの実施状況を以下より選択し、記入する。
 なお、一部の場合は、実施箇所を具体的に記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有（全部） ・有（一部） ・今回実施（全部） ・今回実施（一部） ・無

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
合いマーク	有（一部）	添接板、橋台アカーボルト・ナット

○制振装置の有無 : 当該施設の制振装置の設置状況を以下より選択し、記入する。
 なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な方式を記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有 ・今回実施 ・無
--

【記入例】

	＜第1欄＞	＜第2欄＞
制振装置の有無	有	チェーンダンパー

○柱基部排水性向上対策 : 当該施設の柱基部の排水性向上対策の実施状況を以下より選択し、記入する。次の中から選択して記入する。
 なお、「有」「今回実施」の場合は、その具体的な対策内容を記入する。

<p>【選択項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有 ・今回実施 ・無 ・当該無し

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
	柱基部排水性向上対策	有 柱基部に排水勾配を設置

○設置年月 : 完成年月を記入する（年は西暦を記入）。
なお、完成年月が不明の場合は、第1欄に「不明」と記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>
設置年月	1965年	9月

○備考 : その他構造に関する情報、占用物件の情報等を記入する。

(4) 設置環境情報

○設置環境 : 当該施設の設置環境を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・一般部
- ・橋梁部
- ・トンネル
- ・横断歩道橋
- ・その他

○海岸からの距離 : 最も近い海岸までの距離を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・100m 未満
- ・100m～ 1km 未満
- ・1km～ 5km 未満
- ・5km～20km 未満
- ・20km 以上

- 融雪剤散布区間 : 当該施設設置箇所が、融雪剤（凍結防止剤）散布区間の場合は「該当する」、散布区間で無い場合は「該当しない」と記入する。

- 風規制実施区間 : 当該施設設置箇所が、風や吹雪等による通行止め規制が規定されている規制区間内に有る場合は「該当する」、規制区間外の場合は「該当しない」と記入する。

- 防雪対策実施区間 : 当該施設設置箇所が、防雪対策（吹だめ柵、吹払い柵、防雪林、スノーシェルター等）が設置されている区間の場合は「該当する」、設置されていない区間の場合は「該当しない」と記入する。

- センサス年度
センサス区間番号
交通量 : 当該施設が設置されている路線が、全国道路・街路交通情勢調査（以下、「センサス」という。）対象路線の場合に記入する。
センサス区間番号は 10 桁又は 11 桁、交通量は、24 時間交通量を記入する。

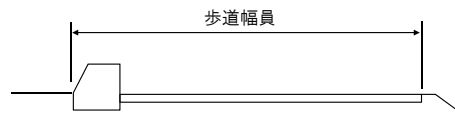
【記入例】

センサス年度	H22	センサス 区間番号	123456878901	交通量	1234 台/24h
--------	-----	--------------	--------------	-----	------------

- 道路幅員（m） : 道路幅員は、「車道幅員+路肩」とし、少数点以下 1 位まで記入する。

- 歩道幅員（m） : 歩道幅員は、「縁石前面」から「歩道舗装端又は敷地境界」間とし、少数点以下 1 位まで記入する。
ただし、当該施設設置箇所に歩道がない場合は、「無」と記載する。

<参考> 歩道幅員の考え方



- 緊急輸送道路指定の有無 : 当該施設の設置箇所（路線）の緊急輸送道路指定の「一次」「二次」「三次」「無」を記入する。

- 通学路指定の有無 : 当該施設の設置箇所（路線）の通学路指定の「有」「無」を記入する。
なお、通学路は、交安法指定通学路の他、学校が独自に指定している通学路を含む。

- 備考 : その他設置環境に関する情報等があれば記入する。

(5) 点検情報

○点検種別 : 実施した点検の種別を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・初期点検
- ・定期点検（詳細）
- ・定期点検（中間）
- ・異常時点検
- ・特定の点検計画に基づく点検

○点検方法 : 点検方法を以下より選択し、記入する。

【選択項目】

- ・近接目視
- ・近接目視＋非破壊検査
- ・外観目視
- ・その他

※門型式の道路標識・道路情報提供装置については、「近接目視」または、「近接目視＋非破壊検査」のどちらかを選択する。

※その他を選択した場合は、備考欄に詳細を記載する

○点検年月日及び
前回点検年月日 : 今回及び前回の点検実施年月日を記入する。

【記入例】

	<第1欄>	<第2欄>	<第3欄>
点検年月日	2014年	4月	1日

※設置年については、西暦で記入する

○点検員
(所属・氏名) : 点検を実施した点検員の所属および氏名を記入する。
なお、所属については、直営の場合は課名・班名など、業務委託の場合は会社名等を記入する。

○備考 : 非破壊検査の種別やその他点検に関する情報等があれば記入する。

○更新履歴 : 更新履歴がある場合「有」、無い場合「無」、不明の場合「不明」を記入する。

○前回設置年月 : 更新履歴「有」の場合、前回設置年月を記入する。

(2) 所見 (その他特記事項)

判定区分だけでは表現できない事項や詳細調査の必要性の有無、引き継ぎ事項等について記入する。

(3) 点検予定

点検ができなかった部材、その理由、点検予定時期、点検実施方法について記入し、必要に応じて写真、ポンチ絵等を添付する。

3. 損傷記録票

部材の健全性の診断において、点検箇所別の変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に「損傷記録票」を作成する。

(1) 部材名称

変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された点検箇所を記入する。

(2) 損傷程度の評価

該当部材について、点検結果票の変状の種類毎に損傷程度の評価区分 (a, c, 又は e) を全て記載する。

(3) 措置 (応急含む)

○実施内容 : 点検時に補修・補強等 (応急含む) を実施した場合、補修・補強等の内容を記入する。

【記入例】

- ・ボルトの再締め付け
- ・浮き錆の除去 等

○未実施 (理由) : 点検時に措置を行わなかった理由を記入する。

【記入例】

- ・補修方法を検討する必要がある
- ・携行した資機材では対応ができなかった。 等

○予定時期 : 実施する予定がある場合、その時期を記入する。

【記入例】

- ・平成 26 年度中

○予定内容 : 補修内容等が決まっている場合、その内容を記入する。

【記入例】

- ・支柱基部に根巻きコンクリートを施工 等

(4) 特記事項

必要に応じて、損傷状況や詳細調査の必要性の有無等を記入する。

4. 板厚調査結果記録票

腐食等変状が見られ、板厚調査を実施した場合に「板厚調査結果記録票」を作成する。

(1) 測定厚

板厚調査を実施した部材・調査箇所・測定位置ごとに測定した厚さ（0.1mm 単位）を記入する。測定位置は調査箇所の円周上 90° ごと 4 点を、測定回数は 2 回を標準とし、これら 4 点×2 回の最小値をあわせて記入する。

(2) 管理板厚

管理板厚とは今後 5 年の間に限界板厚に達する可能性のある板厚のことで、管理板厚＝限界板厚＋腐食速度×5 年 により求め記入する。腐食速度は 0.1mm/年を標準とし、管理板厚は限界板厚＋0.5mm を標準とする。

(3) 限界板厚

限界板厚は設計荷重に対して許容応力度を超過しない板厚のことであり、付録—5 を参考に

して記入する。

(4) 損傷程度の評価

該当部材について、板厚調査結果による評価区分を記入する。

評価区分については、点検要領5.(1)板厚調査による評価区分が参考となる。

<記入例>道路標識 門型

点検表(施設諸元)

種別	道路標識	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所 △△出張所	管理番号	△△△△
----	------	-----	------	---------------	------	------

■位置情報

道路種別	一般国道(指定区間内 高規格以外)			路線名	一般国道〇〇号		上・下別	上・下	
所在地	〇〇県	〇〇市	〇〇町	距離標(km)	〇.〇〇〇				
緯度	dd° mm' ss.s"		経度	ddd° mm' ss.s"		備考			

■構造情報

支柱形式	門型式(オーバーヘッド型)		表面処理形式	塗装式		基礎形式	ベースプレート型		
支柱基部 リブ形状	三角リブ		路面境界部の 状況	ベースプレート露出		灯具種類	-		
標識設置枚数 及び標識番号	2	108の2-B	標識板の 取付形式	吊下式	固定式	標識板の落下 防止対策	無		
ゆるみ止め 対策の有無	無		合いマーク	今回実施(全部)		制振装置 の有無	無		
柱基部排水 性向上対策	無		設置年月	不明		備考	占用物件なし		

■設置環境情報

設置環境	一般部	海岸からの 距離	20km以上	融雪剤 散布区間	該当する	風規制 実施区間	該当しない
防雪対策 実施区間	該当しない	センサス 年度	-	センサス 区間番号	1234567890	交通量	1,000 台/24h
道路幅員 (m)	7.5	歩道幅員 (m)	無	緊急輸送道路 指定の有無	二次	通学路指定 の有無	無

■点検情報

点検種別	定期点検(詳細)	点検方法	近接目視	点検年月日	2014年	〇月	〇日	前回 点検年月日	2009年	〇月	〇日
点検員 (所属・氏名)	株式会社〇〇〇〇		〇〇 〇〇	備考							
更新履歴	前回設置年月										

箇所図



全景



基礎



注1:緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する
 注2:距離標、センサス(年度、区間、交通量)については、ある場合に記入する。

点検表(損傷記録票)

種別	道路標識	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所△△出張所	管理番号	△△△△
----	------	-----	------	--------------	------	------

■損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称	標識取付部										
損傷程度 の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		き裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価	a	c	a	a	a					
	措置後評価		a								
措置 (応急含む)	実施内容		ボルト再締め付け、合いマークの施工								
	未 実 施	理由									
		予定時期									
		予定内容									
特記事項											

措置後



※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

<記入例>道路情報提供装置（門型）

点検表（施設諸元）

種別	道路情報提供装置(添架物有)	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所 △△出張所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	------	---------------	------	------

■位置情報

道路種別	一般国道(指定区間内 高規格以外)			路線名	一般国道〇〇号	上・下別	上・下
所在地	〇〇県	〇〇市	〇〇町〇〇1-2			距離標 (km)	〇〇〇. 〇〇〇
緯度	dd° mm' ss.s"		経度	ddd° mm' ss.s"		備考	

■構造情報

支柱形式	門型式(オーバーヘッド型)		表面処理形式	塗装式		基礎形式	ベースプレート型	
支柱基部 リブ形状	三角リブ		路面境界部の 状況	ベースプレート露出		灯具種類	-	
標識設置枚数 及び標識番号	2	117-A	標識板の 取付形式	固定式		標識板の落下 防止対策	無	
ゆるみ止め 対策の有無	有	ダブルナット(一部)	合いマーク	有(全部)		制振装置 の有無	無	
柱基部排水 性向上対策	無		設置年月	1989年	3月	備考	占用物件あり(標識版2枚)	

■設置環境情報

設置環境	一般部	海岸からの 距離	100m未満	融雪剤 散布区間	該当しない	風規制 実施区間	該当しない
防雪対策 実施区間	該当しない	センサス 年度	H22	センサス 区間番号	1234567890	交通量	2,000 台/24h
道路幅員 (m)	6.5	歩道の有無	有	緊急輸送道路 指定の有無	無	通学路指定 の有無	有

■点検情報

点検種別	定期点検(詳細)	点検方法	近接目視	点検年月日	2013年	〇月	〇日	前回 点検年月日	2008年	〇月	〇日
点検員 (所属・氏名)	株式会社〇〇〇〇		〇〇 〇〇	備考							
更新履歴	前回設置年月										

箇所図



全景写真



注1:緯度・経度については、世界測地系で0.1"単位まで記入する

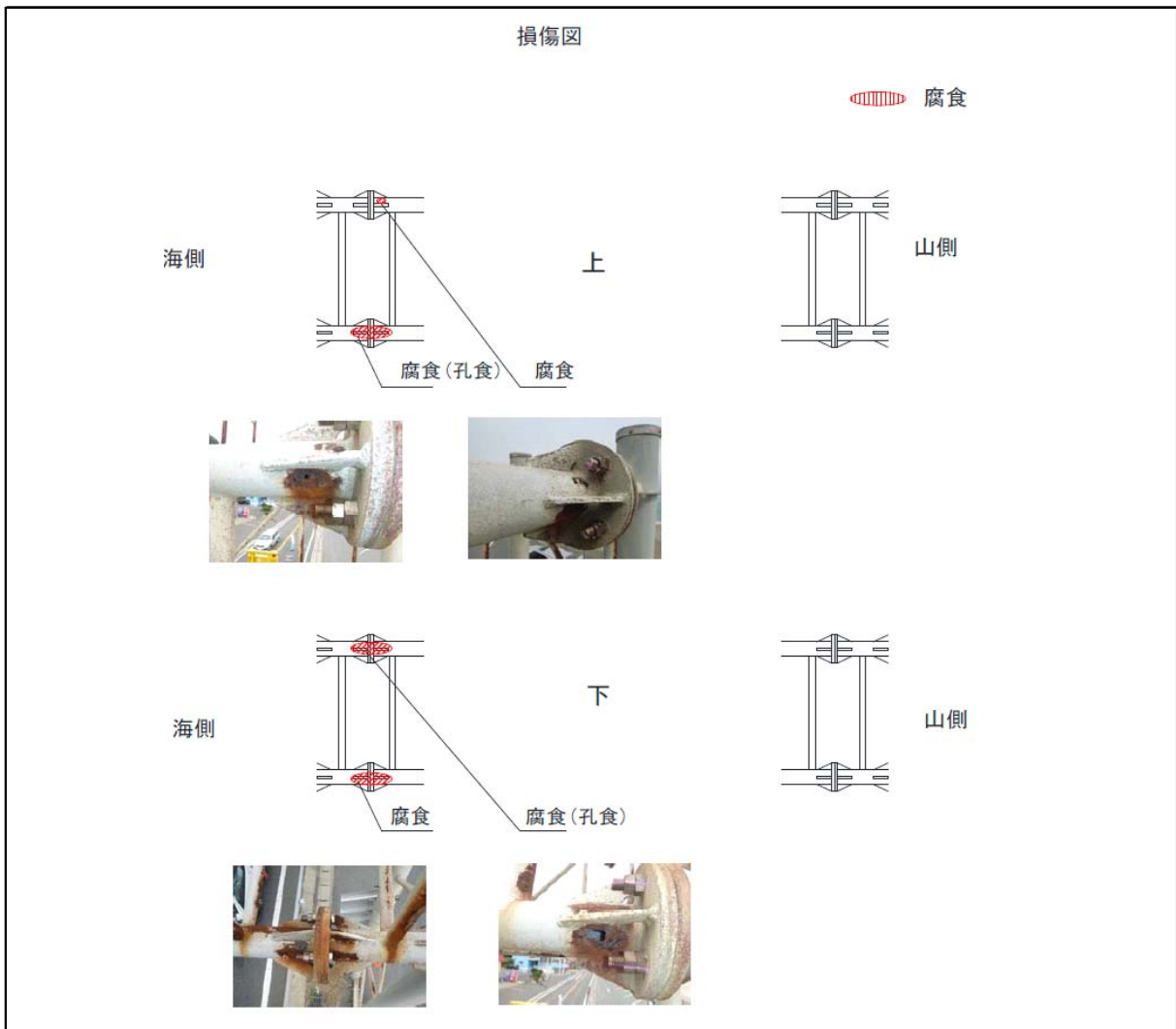
注2:距離標、センサス(年度、区間、交通量)については、ある場合に記入する。

点検表(損傷記録票)

種別	道路情報提供装置(添架物有)	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所△△出張所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	------	--------------	------	------

■損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称	横梁本体										
損傷程度の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		き裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価	a			e	a				-	
	措置後評価										
措置(応急含む)	実施内容										
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、早急に撤去等が必要								
		予定時期	2014年〇月								
		予定内容	撤去								
特記事項	腐食が進展し、孔食まで至っている。 海岸線から100m以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。										



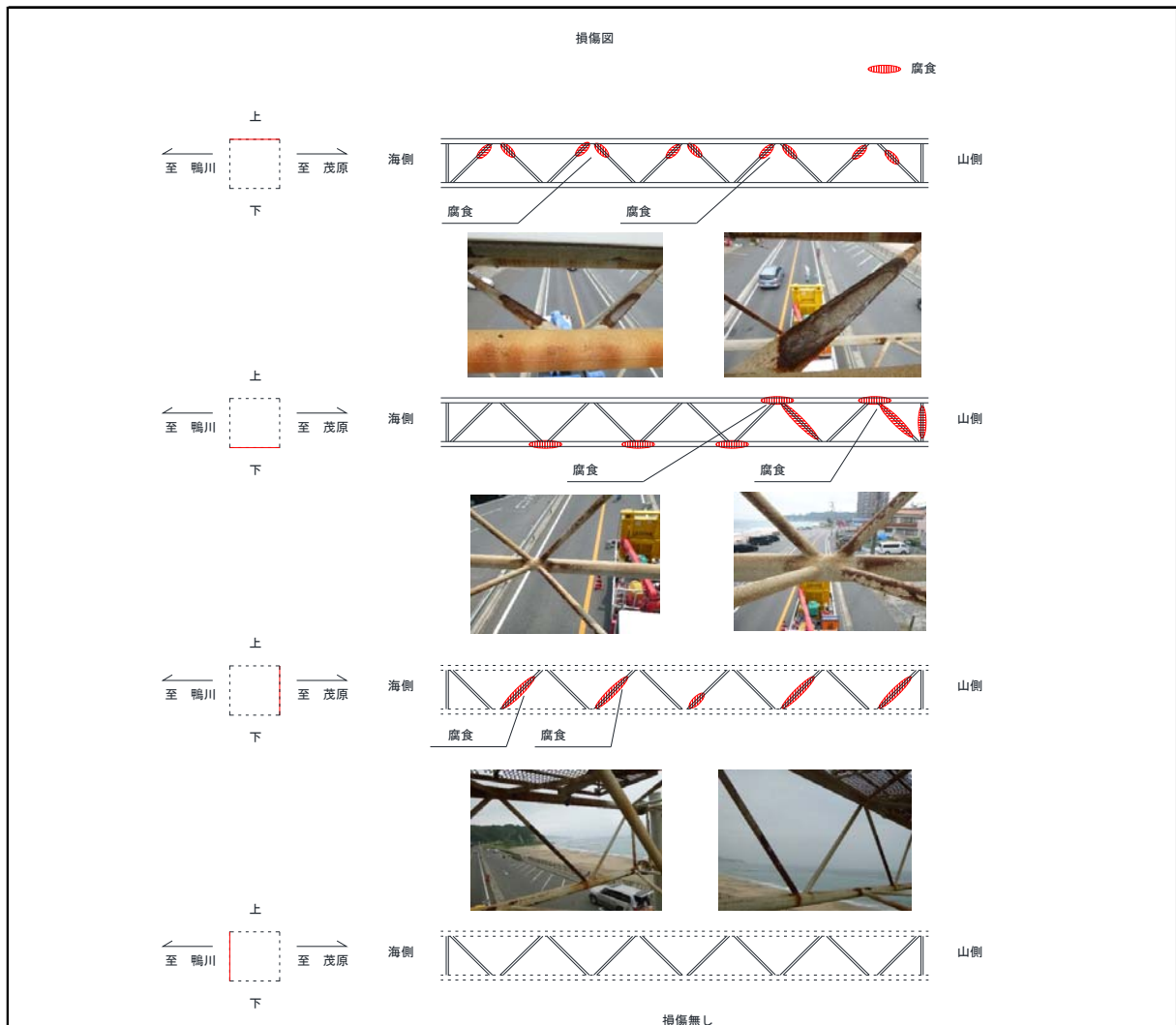
※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

点検表(損傷記録票)

種別	道路情報提供装置(添架物有)	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所△△出張所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	------	--------------	------	------

■損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称	横梁トラス本体										
損傷程度の評価	部材判定	変状の種類									
		鋼部材					コンクリート部材		共通		
		き裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他	
	点検時評価	a			c	a				-	
	措置後評価										
措置(応急含む)	実施内容										
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、撤去・更新の検討が必要								
		予定時期									
		予定内容									
特記事項	海岸線から100m以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。										



※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)

点検表(損傷記録票)

種別	道路情報提供装置(添架物有)	管理者	〇〇地整	〇〇国道事務所△△出張所	管理番号	△△△△
----	----------------	-----	------	--------------	------	------

■損傷程度の評価および措置(応急含む)

部材名称	管理用の足場・作業台									
損傷程度の評価	部材判定	変状の種類								
		鋼部材					コンクリート部材		共通	
		き裂	ゆるみ・脱落	破断	腐食	変形・欠損	ひびわれ	うき・剥離	滞水	その他
	点検時評価	a	a	a	c	a				-
	措置後評価									
措置(応急含む)	実施内容									
	未実施	理由	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、詳細調査を実施し、撤去・更新の検討が必要							
		予定時期	2014年〇月中旬							
		予定内容	未定							
特記事項	腐食が進展し、孔食まで至っている。 海岸線から100m以内の環境にあり、飛来塩分により腐食が促進されたものと思われる。									

損傷図

見下図

海側

海側

※点検箇所毎につき、なるべく1枚で作成(変状の種類に対する判定区分が、1つでもⅡ～Ⅳと判定された部材毎に作成する)